

リーダーの条件

『約束することは17時30分びったり終わること』という言葉からはじまりました。いきなり注目を集めるすごい言葉に続いて、リーダーの心得、リーダーとは、のご講演を頂きました。



Profile : 山元 賢治

常に厳しいグローバル環境で戦ってきた実績

神戸大学卒業後、日本IBMに入社。日本オラクル、ケイデンスを経て、EMCジャパン副社長。2002年、日本オラクルへ復帰。専務として営業・マーケティング・開発にわたる総勢1600人の責任者となる。2004年にステューブ・ジョブズに指名され、アップル・ジャパンの代表取締役社長に就任し、iPhoneの立ち上げからiPhoneを市場に送り出すまで、国内の最高責任者としてアップルの復活に大きく貢献。現在は株式会社コミュニカのCEO兼Founderとして自らの経験をもとに、「これからの世界」で活躍できるリーダーの育成、英語教育に力を注いでいる。

2009年9月末アップルの社長退任、iPhoneを世の中に出し、役割はほぼ終わったかなと思いアメリカに飛んで「今日で終わりにする 死ぬまで、ステューブ・ジョブズのファンだ」、といいのこして、退任した。

退任して7年目になります。社長を務めたのは5年と3ヶ月。退任して次の日に書いた本が「覚悟108」です。約30年アメリカの会社で働き、35才でコンサルティング事業部のGMに。それ以降は上司がアメリカ人。こういう世界で生きてきた経験や、何千人もの部下を預かってきた経験をまとめた本です。人の上に立ちたいとか、人よりお金がほしいとか、人より大きな仕事がしたいのであれば、普通の人は違う生き方になるはずですね。人の上に立つリーダーへのエールをこめて「覚悟108」という本を書きました。

アメリカの企業で長年務めてみて日本をどう感じますか？とよく聞かれます。海外出張は数百回、実は世界に出れば出るほど、日本は世界一いい国だと感じています。しかしどの国にも良い所と悪い所があります。

日本にも悪い所はたくさんあるけれど、今日現在この国で暮らしたいと感じています。

たくさんお金を持っている人の中には相続税のないところに移住したいと考える人もいますが、私はこの国で死ぬたらいいなと感じています。この国をもっとよくしたいとか、将来の若者のために何ができるのかと考えるようになりました。食べ物や鉄道、病院など日本には素晴らしく守りたい点もたくさんあります。素晴らしい国だと若い人たちにも知ってもらいたいですよね。シニアな人間にはそれを伝える義務があります。



Change the Game

欧米人をうならせるようなものを作ることができた時代。

80年代アメリカに出張すると、日本人が作り出すものの品質の高さが本当に尊敬されているのを感じました。アメリカ人が脂汗をかくて焦っているのを感じました。

どう逆立ちしてもハードウェアでは勝てないアメリカ人がやったことは、アメリカ人が仕掛けてきたことは“Change the Game” だったように感じます。ハードウェア勝負ではなく、ソフトウェアやサービスで勝負する時代になったのでしょうか。ゲームが大きく変わってきました。そのことに気づくのに遅れ、教育も政治も変わらない日本には危機感を感じます。

44才のとき

高校生のころコンピュータがやりたい。そのためには世界一のコンピュータの会社に入りたい。それがたまたまIBMでした。B2Bの会社に勤めている時代に考えていたことは、日本の企業が世界一のコンピュータを使って世界一になってもらいたいという事でした。トヨタに向いてコンピュータによる部品管理方法の話や、パナソニックと一緒にプリント基盤をデザイン・製造したりしました。そうやって日本の企業を応援することがやりがいの一部でした。それからずっとB2Bの世界で仕事をしてきました。

しかし、44歳の時にステューブ・ジョブズという非常に魅力的な人に出会うことができました。当時日本オラクルの専務を務めていました。部下の数も多

く、一部上場企業の専務でした。私にとっては経験もないB2Cの世界。初めて一般顧客にもものを買ってもらう仕事への挑戦です。いわば素人の私をステューブは採用してくれたのです。

それまでは日本企業に世界一になってもらいたいという気持ちで仕事をしていました。それがSonyさんと真っ向から勝負するという仕事に変わるので。ステューブにどんな人を次のリーダーとして探しているのか？売上？利益ですか？と質問しました。彼は2年間社長を探している、日本だけが元気がない、社員も元気がない。お客さんも元気がない。日本を元気にしてほしい。それなら少しは貢献できるかもとオファーにサインしました。

家電量販店を足で訪問し続けました。当時はアップルでは儲からない、生意気だと思われていた時代のようなので。量販手では販売もしていない、販売していても店舗の奥の方に置いてあるだけという場合も多かったのを覚えています。未来の製品の発表もしないということでお叱りを受けるケースも多々ありました。こんなに大変な状況を挽回するには、少なくとも5年かかるなと感じていました。家族にもそれで了解をもらいました。今思えばとてもやりがいのある仕事でした。アップルの復活を心から喜んでいる一人です。

コミニカという会社を作り活動の中心にしています。

Visionは“Think into the Future”としました。せっかくこんな素晴らしい国に生まれたのだから、この国から世界にいろいろな夢を発信できる世界にし

たい。それを実現するためには、以下の3つのミッションを果たすことが必要だと感じ活動しています。

- ・ Create Your Future
あなたの未来をあなたの手で
- ・ Design Your English
あなた自身の英語をデザイン
- ・ Visualize Your Career
あなたのキャリアを描き出す
教科書作りだけでも3年かかりました。

リーダーの教育をする、本物の英語の教育をする、リーダー候補の若者を育成をする。

Think Different

私は、子供のころからの一番の褒め言葉が、変わっているとか変だとか言われることでした。ステューブが1997年にアップルに復活して、アップルの復活の方向性を世界に発信したメッセージが“Think Different”でした。

世の中いろいろな人が変えてきた。いろんな人間が生き方や、仕事の仕方を変えようとするときみんな最初は、変な奴とか言う。だけどやがてその人たちの功績に乗じて、人間の生活はよくなっている。だけど世の中を変える人は、ラッキーで変えるんじゃない。結果オーライではない。もともと、自分にしか、この私にしかこの世の中は変えられない。というふうに確信している人物が世の中を大きく変えてきた。

私のお気に入りのメッセージで、今でも毎日のように聞いています。

「クレイジーな人たち反乱者、厄介者と呼ばれる人たち、彼らをクレイジーと言う人がいるが、私たちは天才だと思おう人が、本当に世界を変えているのだから。」

世界に通じるリーダー論をご講義頂きました。

この短く感じた時間の中で、たくさんの「きづき・しげき・げんき」を頂き、感謝申し上げます。

広報委員 大類 憲司/株フジヤ